福島県立医科大学　ダイバーシティ推進室

FMU にじいろ通信

第１５号　２０２５年１２月発行

今年も残すところわずかとなりましたが、学内ではインフルエンザ等各種感染症が流行しています。
マスク、手洗い、うがいを徹底して体調を崩すことなく楽しい年末年始を迎えましょう。

令和7年度　ダイバーシティ推進講演会を開催

令和7年10月27日（月）に全員参加型FD講習会として「令和7年度ダイバーシティ推進講演会」を開催しました。今年度は福島大学　教育推進機構　准教授　前川　直哉先生と、岩手大学　副学長　海妻　径子先生のお二方を講師としてお迎えいたしました。
前川先生には『大学におけるジェンダーとダイバーシティ』という演題で、現在学校に取り巻いているジェンダーや性暴力の問題からはじまり、ジェンダー規範からなる世代差の認識やハラスメント、ホモソーシャル社会などについての実情をお話しいただきました。

続いて、海妻先生からは『大学における女性リーダー職研究者育成の課題～補助事業実施の中で見えてきたもの～』というテーマで、岩手大学にて取り組まれた「女性研究者支援」の内容や改革に対して持たなければならない意識、全国ダイバーシティネットワークの活用などについてお話しいただきました。
講演後のアンケートでは、「ジェンダーに対する考え方や現状が学ぶことができた。まずは自分が理解する事から始め、少しずつ周囲への理解を促していきたい」、「多くの要素で研究者のキャリアが絶たれてしまうので正確に分析することが必要」などの意見が多数寄せられ、意識啓発の良い機会となりました。

全参加者：124名（会場：71名、Zoom：53名）

FMUキャリアアップセミナーを開催

令和7年11月6日（木）災害医学・医療産業棟７階　会議室２において、講師に、本学医学部衛生学・予防医学講座 主任教授 各務　竹康先生をお迎えし「FMUキャリアアップセミナー」を開催しました。
演題「いまさら聞けない基礎統計学6～検定方法選択の第一歩」として、統計の基礎や検定方法の適切な選び方、そして統計のプロへの相談のコツなども交えてご説明いただきました。
参加者からも「今回をきっかけに今後も学びを続けたい」「内容が盛り沢山だったため、年に１回といわず数回聞きたい内容だった」という感想が寄せられ、今年度のセミナーも好評となりました。

参加者：33名（会場：6名、Zoom：27名）

▶ 今後の研究や発表資料作成のご参考に、ダイバーシティ推進室HPでは各務教授の「いまさら聞けない基礎統計学」の初回からの資料をすべて掲載しております。右のQRコードから閲覧可能ですので、ぜひこの機会にご活用ください。

光が丘祭にて

女性医師部門ポスター掲示

10月4日（土）に開催された、福島県立医科大学光が丘祭において、本学医学部1年酒井　遥楓さんと、同じく医学部1年遠藤　花さんが、「女性医師部門～先輩の体験談から学ぶ～」という演題でポスター発表をされました。男女合わせて5名の先生方にインタビューし、取材内容などをまとめて発表されました。
今回のインタビューを通して酒井さんは「自分の将来についてのイメージが具体的に感じることができた。ライフステージへの支援は広がりを見せているが、一方で、人手不足により思うような支援が受けられないという難しい現状も知ることができた。」と仰っていました。

保健科学部カフェを開催します

日　　時：12月16日（火）12：00～13：00
会　　場：福島駅前キャンパス　7Fラウンジ
テ ー マ：内定への道：
　　4年生が語る就職活動リアルストーリー
講　　師：
　理学療法学科4年生
　　和知 柊斗さん
　作業療法学科4年生
　　笹川　亮さん
　診療放射線科学科4年生
　　佐藤　凛太郎さん
　臨床検査学科4年生
　　舟田　理奈さん

下のQRコードから
お申込みください

10月は「男女共同参画推進月間」でした

毎年10月は「ダイバーシティ推進月間」として、推進員（所属長）による＜職場内研修会＞の開催を定めております。部署単位での意識浸透を進めていただきありがとうございました。

看護学部カフェを開催します

日　時：令和8年1月29日（木）
時　間：16：30～17：30
場　所：8号館3階学生ラウンジ
対象者：看護学部教職員、本学教職員
定　員：30名（4～5人を1グループ、
　　15分毎にメンバー入替）
形　式：ワールド・カフェ形式（会議のような堅苦しいものではなく、カフェのようなゆったりとした雰囲気の中、席替え等をしながら誰もが自由に意見を交換し合う対面形式ファシリテーションのことです）

テーマ：ダイバーシティ・カフェトーク

「ひとりひとりの能力を最大限に発揮できる環境」になっているか、どんなことを実現していけば大学全体が活性化するか学生・教員に関わらず意見交換を図ります。

【締切】令和8年1月27日（火）

右のQRコードから
お申込みください

看護学部申込

◆用語解説◆

『グラスシーリング（ガラスの天井）』とは？『壊れたはしご』との違い

『グラスシーリング』とは、女性やマイノリティが組織内で一定以上のポジションに昇進できない見えない＜ガラスのような＞障壁という意味を持ちます。グラスシーリングは日本語で『ガラスの天井』とも言われます。最近では自民党の高市早苗氏が女性初の総理大臣に就任されたことで「ガラスの天井が破れた」という言葉を耳にされた方も多くいらっしゃると思います。こういった＜天井＞が存在するのは社会偏見のみならず、既存の管理職層と似た人物が選ばれやすい傾向で上が詰まっているために起きることもあります。
類語に『壊れたはしご』という用語もありますが、こちらは初期段階から組織のシステムが「女性は男性に比べて進む道が異なるようになっている」ために起きることを指します。こちらは女性やマイノリティにはキャリアアップの機会が最初から与えられていないため制度上「ガラスの天井にすら到達できない」ということです。

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別・立場に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、かつ、仕事と生活の調和を実現することを目指しております。

福島県立医科大学　ダイバーシティ推進室

E-mail：gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel：024-547-1657（内線：2807）
HP：https://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/
ダイバーシティ推進室長　前島　裕子